

令和３年度 第２回 堺市依存症対策推進懇話会（ギャンブル等分科会） 議事録

1 日 時 令和３年8月25日（水）午後2時10分～午後3時10分

2 場 所 オンライン（事務局：堺市役所高層館20階第１特別会議室）

3 委 員

出席者 伊東委員・入來委員・ソウマ委員・寺田委員

4 事務局

こころの健康センター 大上

精神保健課 松尾

5 議事の内容

（１）案件・報告

案件①「堺市依存症地域支援計画」（素案）の検討について【資料１】

委員からの意見・質疑

【伊東委員】

・まず、今回のスケジュールを確認したい。意見を反映して計画を作成するということだが、意見を述べるのは、本日の１回のみか。

【事務局】

・そうである。意見をお聞きする場は本日の１回のみだが、随時意見をいただければ、その都度承る。

【伊東委員】

・大枠から細かいところまで意見を言いたい部分が多すぎて、どこから述べようかと思っている。
・大枠から述べる。以前も述べたが、「回復」、「治癒」、「完治」などの言葉が使われているが、言葉の定義が必要である。「予防」は、どこまでの意味合いを含めているのか。冒頭から「回復」という言葉が出てくるが、依存症の問題をよく理解している人にとっては当たり前の言葉かもしれないが、今まで関心をもっていない人は、「回復」とはということかと疑問をもつと思う。「治癒」、「完治」も同様で、このように様々な言葉が出てくることで、混乱するのではないか。回復に関連して「再発」、「再使用」が出てくるが、「回復したからこそその、再発、再使用」という意味合いなのか、「回復の途中でも再発、再使用」というのかなど、言葉の定義や使い分けがよく分からない。

【事務局】

・確かに依存症に関わっている関係者は、「回復」、「予防」のイメージはある程度わくと思うが、この計画は一般市民が目にするものなので、もっと分かりやすい表現を検討すきだと思う。用語集をつける予定のため、そこで説明するようにする。

【伊東委員】

- ・1次予防、2次予防、3次予防、4次予防とあり、通常の発症、進行、再発予防をこのように言っているのではと思うが、素案の4次予防は、よく言われる3次予防に該当する。あえて4次予防という言葉を使っていることがよく分からない。

【事務局】

- ・4次予防という言葉は、一般的ではないか。入来委員どうか。

【入来委員】

- ・44ページに記載のある「4次予防」という言葉は、聞き慣れない。1次予防、2次予防、3次予防は、知っている人は知っているが一般の人には分からない。カッコ書きで書いているためニュアンスとしては分からないでもないが、あまり聞き慣れない言葉である。

【事務局】

- ・一旦回復した人が維持したり、社会資源を利用して支援を受けながら止めている人の再発を予防するという意味で、「4次予防」という言葉を使った。違和感があるということであれば、再検討する。

【入来委員】

- ・厚生労働省のホームページでは、「ノーマライゼーション」という言葉を、「疾患や障害を抱えながらも生き生きと安心して暮らせる」というニュアンスで使うことがある。その意味がしっくりくるなら、「ノーマライゼーション」を使ってもいいと思う。

【事務局】

- ・参考にする。

【入来委員】

- ・アルコールも他の依存症もそうだが、2ページ目に飲酒運転、虐待、DVなどが書かれているが、確実にそれらが直結するということを書き過ぎると偏見を生む。スティグマ軽減などを考えて、表現を工夫したほうがよい。

【事務局】

- ・スティグマというのは、依存症への偏見ということか。

【入来委員】

- ・そうである。あまり書き過ぎると、例えば、「アルコール依存症者はDVをする、虐待をする」などと直結して考えられてしまうため、避けるべきである。

【事務局】

- ・マイナスイメージを増長しないようにしながらということか。

【入来委員】

- ・そうである。関連する問題として、このようなことがあるということを書くのはよい。ちょっとした表現の違いである。そのような視点で見てほしい。

【寺田委員】

・まだこれは素案だが、相談窓口などの周知徹底を図るということなので、出来上がれば具体的に窓口の番号なども出ると思う。身近なところできるように、また、それがどこでも目につくようにしてほしいがどうか。堺市の冊子があるが、特定の場所に行かなければ、入手できない。

【事務局】

・堺市の冊子とは、悩み相談の冊子のことか。

【寺田委員】

・そうである。われわれも3年くらい前から掲載してもらっているが、どこに行ってもあるというものではない。市役所にはあまり行かないため、極端に言えば、スーパーにコーナーを設けて置くなど、もっと身近なところで目につきやすいところがあればよいという話を聞く。

・大阪府、大阪市を含めてそうだが、題目としては様々なことをやると言っているが、実際の動きとしてはそれほどされていないように思う。今年の啓発週間のときも、新型コロナ禍で表立ったことはなく、チラシの配布のみだった。われわれ自助グループは、自分たちで様々な計画を立てて会場を押さえて実施しているが、そこにも行政はあまり参加していない。実際には、その辺りの連携が取れていない。10月に、大阪府の予算をいただき、大阪府市の行事を予定している。本日、関係方面に案内書を送ったため、見ていただきたい。このような連携をもっと強めて発信しなければならない。

【事務局】

・ご指摘いただいた横のつながりは、自助グループの方々はもちろん、行政だけでなく、医療機関、相談機関などと強めていきたいと考えている。入来委員からも事前に言われており、ネットワークの強化は意識している。集まりたいと思っており、その中でお互いの顔を知り、情報交換などを行っていきたい。

【寺田委員】

・ギャンブルはお金が絡むため、弁護士、司法書士などに連携の輪に入ってもらえると非常にありがたい。われわれのところにも相談がくるが、弁護士を知らないため、どこに行けばよいかなど連絡先が分かればありがたい。

【事務局】

・伊東委員からも、「今回の社会資源の中に、司法関係をぜひ入れてほしい」と言われていたため、大阪アディクションセンター（OAC）での記載ではあるが、今回の資料で示している。

・計画の本編には、具体的な事業などは記載せず、大本の部分としてすっきりしたものを作るようにと指示を受けている。別冊や資料編で、更新できる形で、市民の皆様にタイムリーに情報を届けられるようにと思っており、懇話会でのご意見も含めて、できることを作っていききたいと考えている。

【ソウマ委員】

・限られた予算の中で、よくやったださっている。予算取りから始めると、来年4月以降でなければ動けない。予算がない中で、絵に描いた餅にならないようにすればよい。自助グループは、お金儲けはできない。スーパーにチラシを置くだけの資金はどこにあるのかと思う。それだけの予算がないなら、そう言えばよい。それが真実である。真実がないところに回復はない。

【事務局】

・予算をふんだんに使える状況にはないが、お金を使わずにできることもあると考えている。ネットワークの強化や、ツイッターを活用するなどの費用のかからないことで発信することはできる。相談機関一覧の配布先は、ご意見のように、スーパーなど視点を広げて考え方を変えることが必要だと思う。われわれはよくやれているとは思っていないが、そのように言っていただき、感謝する。

【ソウマ委員】

・焦らなくても継続していけばできる。継続は力である。われわれは、大阪のグループで25年以上活動しており、それだけの実力をもっている。皆で歩けば進んでいけるため、協力させていただく。

【事務局】

・心強いお言葉に感謝する。

【入来委員】

・先ほど、ソウマ委員から、「コロナ禍でミーティング会場が使えないのは困る」という話があった。会場の確保で協力ができればよいと思う。他所ではなかなかないため、ぜひやっていただきたい。

【事務局】

・ミーティング確保の困難は他の依存症でもあると思う。

【入来委員】

・費用面のサポートもあればよい。自分たちで何とかすることが困難なことがある。会場が閉鎖になって使えなくなるなどがあるようなので、行政で補助していただけるとありがたい。

・大阪アディクションセンター（OAC）も、まさに絵に描いた餅になっており、長い間同じことを繰り返している。会議だけ行っていて、具体的に進んでいない。このように分科会を開催しているため、分科会で分けて具体的にどのように進めるかを検討するほうがよい。堺市に限ったものではないため、ここで発言すべきことかという点はあるが、堺市で行ったほうがコンパクトで動きやすいなら、よりよいと思う。ここに盛り込まなくても、そのような具体的な計画をスケジューリングして、「〇年後にはこのようなものを作る。そのために今年はずいぶんこれをする」などを、達成目標として掲げたほうがよい。

【事務局】

・大阪アディクションセンター（OAC）の存在もあるが、堺市も、一旦「依存症」のくくりで集まり、その中で依存領域に分かれて、より濃いコミュニケーションが取れるようにしていきたいと思った。非常に参考となる意見をいただいた。

【入来委員】

・ケースでやってみたほうがよいかもしれない。10ケースくらいやってみると、大体の傾向が分かると思う。最初に枠をつけすぎると、あとでひずみが出て困るかもしれない。1つ1つの症例に対して試行錯誤しながら行って積み重ねるのが、実は一番よいと思う。

【事務局】

・事例検討ということか。

【入来委員】

・検討というより、実際にやりながらということになると思う。少し、計画案からそれるかもしれないが。

【事務局】

・計画でも、普段の相談活動でもそうだが、想像を超える困った状況も出てくる。皆で知恵を絞って、そのような人にどのような支援ができるかを考えることに意味がある。ケースを軸に考えることも1つの材料にしていきたい。

【寺田委員】

・43ページの「治療、回復支援の充実」の右側の「薬物依存症専門相談事業」に、「本人向け回復プログラム、家族教室等」とあるが、これは市で開催するということか。

【事務局】

・薬物については、既に集団の回復プログラムと家族教室を行っている。

【寺田委員】

・同じようなことをギャンブルでも行うということか。

【事務局】

・ギャンブルでも、集団の回復プログラムと家族教室を行っている。

【寺田委員】

・それはどこで行っているのか。私はあまり聞いたことがない。

【事務局】

・堺市のこころの健康センターで実施している。現時点では、皆様にお知らせしているのではなく、相談に来られた人の中で希望者に紹介している。

【寺田委員】

・借金相談も同じような形か。

【事務局】

・そうである。伊藤委員などに講師として来ていただき、家族様向けに行っている。

【ソウマ委員】

・こころの健康センターで何年も前から実施している。そこの門をたたいた方は、何人も家族も、われわれの自助グループに通っている。私も時々、そちらをのぞきに行っている。

【事務局】

・こころの健康センターでは、ギャンブルについては平成30年から専門相談を行っている。ソウマ委員にも来ていただいている。家族にも家族教室に参加していただいている。小さいながら、皆様とは少しずつ連携を取っている。

【入来委員】

・クローズな会になっていることは問題かもしれない。相談に行けばそのようなプログラムもあり、家族の支援もあるが、広報が足りていないように思う。先ほども、啓発週間の知名度が低く、内容がよく分からないなどがあったため、もっと広報したほうがよい。いかに広めるかである。この会に来ている人の中でも、どこで何を行っているかを知らない、申し込み方法も知らないという状況がある。情報交換がもっと密にできればよい。それが連携である。今まで各部署では一生懸命行ってきたおり、つながっているとこ

ろもあるが、つながりが不足している部分がある。

【伊東委員】

- ・4ページの「（３）ギャンブル等依存症対策の取組」の「ギャンブル等依存症とは」で、「宝くじ」「FX（外国為替証拠金取引）」などはギャンブル等には含まれないような書きぶりだが、少なくとも大阪府こころの健康総合センターのホームページでは、宝くじやナンバーズ、ロト、FXなどもギャンブル等に含まれると解釈しているような記述がある。なぜ、あえて「ギャンブル等以外にも」という書きぶりにしたのかが分からない。これらもギャンブル等に含めてよいと思う。

【入来委員】

- ・書き方の問題だと思う。「その他にも」のような記載にすればよいかもしれない。これは法律用語だと思う。ギャンブル等依存症対策基本法の定義で、「パチンコ・スロット」などの遊戯は入っているが、「宝くじ」「FX（外国為替証拠金取引）」は入っていないのだと思う。

【伊東委員】

- ・ギャンブル等依存症対策基本法も、このような定義だったか。ここまで細かい定義はなかったと思うが。

【入来委員】

- ・「宝くじ」「FX（外国為替証拠金取引）」は書いていなかったかもしれない。

【伊東委員】

- ・「宝くじ」「FX（外国為替証拠金取引）」も含めてギャンブル性があることは間違いのないため、これらはあえて外さない方がよいと思う。

【入来委員】

- ・私も入れたほうがよいと思う。

【事務局】

- ・入来委員が言われたように、「その他にも」などの表現にしてはどうかと思うが、どうか。

【伊東委員】

- ・そのほうがよい。「ギャンブル等以外にも」と書くと、ギャンブルではないと思われる。

【事務局】

- ・庁内的な事情でこのような表現になっているかもしれない。「ギャンブル等以外」としてしまうと、完全に外れてしまうため、表現を改める。

【入来委員】

- ・4ページの下から6行目の「借金の問題です。しかし、」だが、「しかし」の意味が分からないため、削除してもよいと思う。

【事務局】

- ・削除する。

【伊東委員】

- ・細かい指摘事項は多いため、別途連絡する。
- ・44ページの「取組4」のタイトルが、「依存症になっても」という表現なのが気になる。例えば、「認知症

になっても」とすると、「一旦発症すると元通りにはなかなか回復しないものだが」ということになるため、依存症も元の状態には戻らないのではという印象を与えないか懸念がある。一方で回復すると言いながら、一方では回復しないかのような表現になっている。

【事務局】

・ニュアンスの問題で難しいが、確かにそのようなイメージにもとれるように思う。検討する。

【伊東委員】

・40ページの「取組 1」だが、冒頭で「依存症は一度発症すると完治しない慢性の病気です」と言い切っているが、これは言い切ってもよいのか。「です」と言い切ると、言葉として強すぎるように思う。「完治しない慢性の病気だと言われています」くらいの表現のほうがよいのではないか。

【入来委員】

・私も「言われています」のほうがよいと思う。

【事務局】

・そのように修正する。

【伊東委員】

・別の分科会でご意見があると思うが、40ページの、「薬物依存問題に関する普及啓発および予防教育の実施」のコラムの左側に「乱用はダメなものとの教育だけでなく」とあるが、乱用がダメなことは当たり前なので、教育の必要はない。「使用自体がダメなことを教育する」が正解だと思う。

【入来委員】

・ここで薬物の定義が曖昧なのだと思う。違法薬物はだめだが、それ以外の市販薬も含めるなら、使用は悪くないのかもしれない。

【事務局】

・そのようなご指摘があったことを薬物分科会に伝える。

【伊東委員】

・細かい話だが、43ページの一番下に「OAC（大阪アディクションセンター）」とあるが、44ページでは「OAC（堺市域）」となっており、OACに堺市域の何かがあるように思える。これは「OACのフォーラムで堺市域で開かれるものを実施する」という意味合いだと思う。書きぶりから誤解を生むように思う。

【事務局】

・44ページのものについてだが、約2年前まで、OACミニフォーラムという形で大阪府を4分割ほどして実施していたが、昨年度、大阪府から堺市独自に自主的に実施してほしいという話を受けた。自主的に実施するものを計画に載せるような市域のネットワーク強化というものに変えるか、もしくは、OACミニフォーラムというニュアンスを残すかが、大阪府との間で未整理になっている。

【伊東委員】

・いずれにせよ、誤解を生みそうである。

【事務局】

・大阪府全域で実施するOACミニフォーラムのニュアンスが残っているため、表現を修正する。

【事務局】

・寺田委員、ソウマ委員からはご意見はないか。

【ソウマ委員】

・今は動けないので、新型コロナが早く終結することを祈る。

【事務局】

・緊急事態宣言が発出されると、健康福祉プラザも使用停止になると思う。

【ソウマ委員】

・まん延防止等重点措置でも、夜間は使用できない。

【寺田委員】

・私どもも、現在健康福祉プラザを使っているが、緊急事態宣言中は使用禁止なので、できていない。オンラインで実施しているが、オンラインで参加できる人とそうでない人がいる。できれば顔を合わせて行いたい、難しい。

【事務局】

・オンラインでは、技術的に厳しい人がいるのか。それともオンライン自体に問題があるのか。

【寺田委員】

・スマートフォンのラインミーティングがほとんどである。Zoomで行うのはハードルが高い。

【事務局】

・後ほど、細かいことでもお気づきの点があれば、どのような手段でも構わないので、連絡いただくと非常にありがたい。

・今後のスケジュールとしては、本日の懇話会の結果を受けて至急修正を行い、庁内で報告を行う。そこで完了できれば、次の懇話会で皆様に最終案を見ていただく。

・こころの健康センターから、最新の報告をする。今年度、ギャンブル依存症が例年に増して多くなっている。7月末時点で半分くらいの量が来ているため、昨年より増えるのではと思っている。今までは、パチンコが約8割だったが、若干減って約6割になり、競馬、ボートなどの9.8割がネット経由で行われている。新型コロナ禍で在宅でスマートフォンを見る機会が多くなったのかもしれない、そのようなものを使える若者が増えたのかもしれない。そのようなところでも問題が大きくなっており、金額も大きくなってきている。20代の若者も出てきている。今後とも皆様と連携していきたい。よろしくお願いします。

【入来委員】

・市民意識行動調査とインタビュー調査は、堺市のホームページで公表されているのか。

【事務局】

・懇話会で配布したものは公表している。それ以外も含めたすべてのものは、計画策定の際に公表するよう考えている。

・こころの健康センターでは、今まではまん延防止等重点措置の期間中は中止だったが、今は緊急事態宣言中でも、人数を絞るなどで少しずつ実施しようとしている。本人向け回復プログラムも実施するようにしている。来ていただいた人には、家族会、自助グループ、司法関係のいちようの会などを常にアナウンスしている。よろしくお願いします。

・細かい修正部分は省略するが、本日議論いただいた内容を簡単に振り返ると、「予防」の表現、ステ

イグマの話、ネットワークの強化、自助グループ活動が止まっているため、それへの支援を考えてほしい、「宝くじ」「FX（外国為替証拠金取引）」をどうするか、「慢性の病気」に関する表現の言い換え、少しでも多くの人に情報を周知すること、などのご意見をいただいた。計画の参考にさせていただく。

以上